

キミカ、アルギン酸増産

食品・医薬用 主力の千葉工場拡張

【千葉】キミカ（東京都中央区、笠原文善社長、03・3548・1941）は、食品添加物など向けのアルギン酸を製造する新工場への投資を当初計画の30億円から35億円に増やす。主力の千葉プラント（千葉県富津市）隣接地に当初計画比5割増の2万4095平方メートルの土地を取得。2017年中に着工、18年中の稼働を目指す。生産能力は月間220トンから300トンにアップする。国内外の食品や医療分野で品質管理が徹底したアルギン酸のおう盛な需要に対応する。

アルギン酸は海藻に含まれる天然繊維。滑らかな水溶液からゼリー状態まであり、増粘剤や安定剤などの食品添加物や、胃壁保護薬、再生医療関連などメディカル、化粧品、農業用の育苗培土など幅広い分野で需要が拡大している。

これを受け、16年に計画していた拡張案を見直した。千葉プラントの敷地面積は現在の2倍の4万7724平方メートルとなる。新工場には中和や精製工程の設備棟、顧客仕様に製品を調節する調整棟、GMP（医薬品の製造管理および品質管理に関する基準）などの管理を行う管理棟などを設置する。特に同社が得意とするユーザー別の用製品などに加工。千葉プラントの生産品のうち7割は米国などに輸出している。今回の拡張により、20年12月期に売上高100億円（16年12月期は85億円）の達成を目指す。

これを受け、16年に計画していた拡張案を見直した。千葉プラントの敷地面積は現在の2倍の4万7724平方メートルとなる。新工場には中和や精製工程の設備棟、顧客仕様に製品